

第6章 環境影響評価の項目

第6章 環境影響評価の項目

6.1 環境影響評価項目の選定

影響要因及び環境要素を勘案して、調査、予測及び評価を行う必要があると考えられる項目（以下「環境影響評価項目」という。）を選定した。

環境影響評価項目の選定結果は表6-1に示すとおり、大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等）、騒音、振動、土壌汚染、日照阻害、電波障害、風害、景観、廃棄物等（廃棄物、残土）、温室効果ガス等（二酸化炭素）の10項目とした。

表6-1 環境影響評価項目の選定結果

環境要素の区分			影響要因の区分			存在	供用		
			一時的な影響	工事の実施	建設機械の稼働		建築物の存在	施設の供用	自動車の走行
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	大気環境	大気質	二酸化窒素		●	●		●	●
			浮遊粒子状物質		●	●			●
			粉じん等	●					
			有害物質						
		騒音	騒音		●	●		●	●
		振動	振動		●	●			●
	悪臭	悪臭							
	水環境	水質	水の汚れ						
			水の濁り						
			富栄養化						
			溶存酸素						
			有害物質						
			水温						
		底質	底質						
		地下水汚染	地下水汚染						
		水象	水源						
			河川流、湖沼						
			地下水、湧水						
	海域								
	水辺環境								
	土壌環境	地形・地質	現況地形・地質等						
		地盤沈下	地盤沈下						
		土壌汚染	土壌汚染	●					
	その他の環境	日照阻害	日照阻害				●		
		電波障害	電波障害				●		
		風害	風害				●		
		反射光	反射光						
生物の多様性の確保及び自然環境体系的保全	動物	重要な種及び注目すべき生息地							
	植物	重要な種及び群落							
	生態系	地域を特徴づける生態系							
人と自然との豊かな触れ合いの確保	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観				●			
	自然との触れ合い活動の場	主要な人と自然との触れ合い活動の場							
	文化財	文化財							
環境への負荷	廃棄物等	廃棄物	●				●		
		残土	●						
	温室効果ガス等	二酸化炭素					●		
		その他の温室効果ガス							
オゾン層破壊物質									
一般環境中の放射性物質	放射線の量	空間線量率							
		放射能濃度							

注) ●：選定した環境影響評価項目